令和５年度

「大学生と集落の協働による地域活性化事業」

# 北塩原村桧原・裏磐梯地区
# 実態調査報告書

2024 年 2 月

立教大学・文教大学　磐梯山プロジェクトチーム

# 目次

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・2
1-1　チームの紹介
1-2　目的

2. 北塩原村の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・2
2-1　位置
2-2　気候
2-3　名前の由来
2-4　地域区分
2-5　自然

3. 実態調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・4
3-1　調査概要
3-2　ヒアリング先
3-3　現地調査スケジュール

4. 調査結果のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・6
4-1　観光への影響
4-2　課題
4-3　村の代表的なお土産と課題

5. 実態調査で明らかになった課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・9

6. 今後に向けて ・・・・・・・・・・・・・・・・10

謝辞 ・・・・・・・・・・・・・・・・10

参考文献 ・・・・・・・・・・・・・・・・10

## 1. はじめに

### 1-1　チームの紹介

私たちは立教大学観光学部橋本研究室と文教大学国際学部海津研究室の合同チームである。両大学では、磐梯山周辺地域（北塩原村、猪苗代町、磐梯町）を対象とし、2013 年度から共同で研究を進めてきた。研究・活動分野は、立教大学は観光行動、文教大学はエコツーリズムで、この二つの視点を融合させつつ、現地の調査パートナーや地域住民の方々の協力を得ながら調査を続けてきた。

これまで、磐梯山噴火被災地という共通点を有する 3 町村において、地域振興に資することを目標に、地住民の方々への聞き取り調査と現地調査により地域の資源発掘作業を続けており、その成果をモニターツアーの企画・催行や、ウォーキングマップやフェノロジーカレンダー（地域資源活用のための暦）の作成などの形で、地域の“宝”を可視化してきた。

### 1-2　目的

今年度は 3 町村のうち北塩原村桧原・裏磐梯地区を対象に調査を行った。現地調査に行く前に、北塩原村の概要に関する事前調査を行い、チームメンバーで知識を共有した。

現地調査では、長年調査にご協力いただいている北塩原村商工観光課、裏磐梯エコツーリズム協会の要望をいただき、北塩原村裏磐梯地区において、観光関連事業者を対象に以下 3 点の聞き取り調査を行った。

①東日本大震災と新型コロナウイルス感染症の観光への影響

②事業や村の振興に関して現在認識している課題

③北塩原村の土産品・農産品等についての評価

これらの聞き取り調査をもとに、同村における観光業界の課題の構造を整理するとともに、観光学を学ぶ大学生という若者の視点から見た解決策を検討することを目的とした。

## 2. 北塩原村の概要

北塩原村は 1954 年の合併促進法により当時の北山村、大塩村、桧原村が合併して、誕生した。図 1 の紫、赤、緑の丸はそれぞれ北山村、大塩村、桧原村の位置を示している。

### 2-1　位置

福島県の北西部に位置し、東方は猪苗代町、西方は喜多方市に隣接し、北方は山形県米沢市、南方は喜多方市、磐梯町及び猪苗代町に接している。村の総面積は 234.08 ㎢で東西 22.5km、南北 19.3km に渡っている。

図 1：北塩原村地図
出典：福島県北塩原村ホームページ　筆者加筆

2-2　気候

北日本型の積雪寒冷地帯であり、西部北山地域では盆地気候、東部桧原・裏磐梯地域は、夏涼しく冬雪深い山間特有の気候となっている。

2-3　名前の由来

昭和 28 年に合併した北山村・大塩村・桧原村の 3 村の漢字 1 文字ずつをとってつけられた名前である。北山村の「北山」は漆地区にある北山薬師という薬師堂から名づけられたとされている。大塩村は村の各地に塩井があったことから由来しており、戦国時代にすでに名づけられていたと考えられている。桧原村は檜が多く植生していたことから名づけられたとされている。

2-4　地域区分

気象、地勢等の自然条件及び産業構造等の社会経済的条件を異にする三地区で構成されている。標高 200m～300m の北山地区、400～500ｍの大塩地区、800～1000ｍの桧原地区に分かれている。

2-5　自然

豊かな湖沼と清らかな川の流れ、緑あふれる山々など、北塩原村は美しい自然に囲まれ、そのほとんどが磐梯朝日国立公園に含まれる国内屈指の高原リゾート地である。その中心を成しているのが磐梯山である。磐梯山は約 5 万年前と 1888 年の少なくとも二度、大規模

な山体崩壊・岩なだれを起こした。5 万年前の山体崩壊は表磐梯側で起き、川をせき止めて猪苗代湖ができたと考えられている。1888 年の山体崩壊は裏磐梯側で起き、水蒸気爆発により小磐梯を崩壊、消滅させ、岩なだれが川をせき止め、数百もの湖沼が形成された。桧原湖、秋元湖、小野川湖をはじめ、それらに挟まれるように位置する数十の湖沼群が五色沼である。五色沼は 2016 年、ミシュラン・グリーンガイド 1 つ星の評価を受けた。

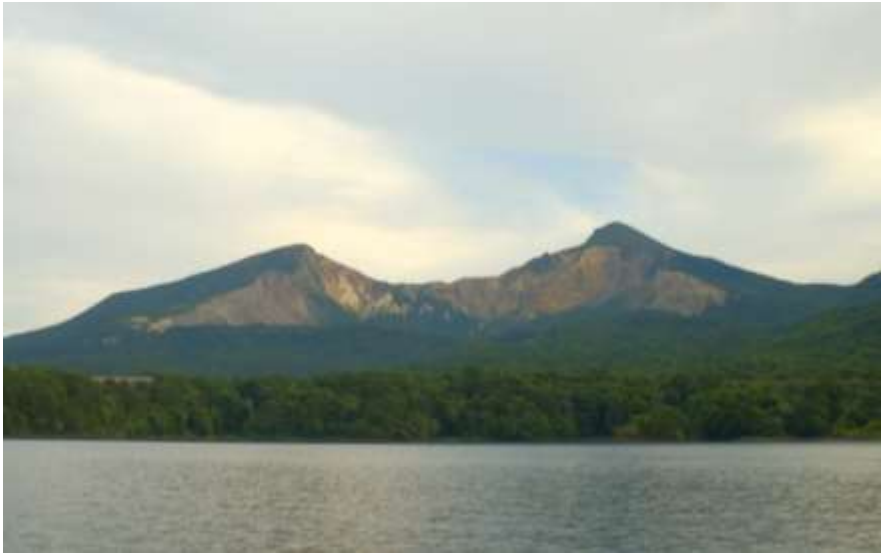

図 2：裏磐梯方面から見た磐梯山（1888 年噴火による山体崩壊の痕跡）
筆者撮影

## 3. 実態調査の概要

### 3-1　調査概要

2023 年 9 月 1 日から 9 月 4 日に現地調査を行った。北塩原村における観光事業、飲食業、アウトドア事業、インドア施設を経営している方々を対象に、①東日本大震災と新型コロナウイルスの観光関連事業への影響について、②事業や村の振興に関して現在認識している課題、③北塩原村の土産品・農産品等についての評価の 3 点について聞き取り調査を行った。

### 3-2　ヒアリング先

〇観光事業所：北塩原村商工観光課、裏磐梯ビジターセンター、北塩原村商工会、裏磐梯観光協会、裏磐梯エコツーリズム協会
〇飲食業：むらびと、めだかのがっこ、ヒロのお菓子屋さん
〇アウトドア事業：松原キャンプ場、はれがさやアクティビティ
〇インドア施設：ラビスパ裏磐梯、磐梯山噴火記念館

3-3　現地調査スケジュール

１日目（9/1）

北塩原村商工観光課→五色沼（毘沙門沼周辺）視察→昼食→むらびと→磐梯山噴火記念館視 察→北塩原村商工会

図 3：北塩原村商工観光課での聞き取り調査の様子

図 4：むらびとでの聞き取り調査の様子

２日目（9/2）

東鉢山七曲→裏磐梯ビジターセンター→裏磐梯観光協会→裏磐梯ビジターセンター視察 →昼食→野菜収穫体験（湯流里）→松原キャンプ場

図 5：野菜収穫体験の様子

図 6：松原キャンプ場での聞き取り調査の様子

３日目（9/3）

桧原歴史館、桧原集落視察→昼食→めだかのがっこ→ヒロのお菓子屋さん→はれがさや アクティビティーズ

図 7：めだかのがっこでの聞き取り調査の様子

図 8：ヒロのお菓子屋さんでの聞き取り調査の様子

４日目（9/4）

裏磐梯エコツーリズム協会→ラビスパ裏磐梯→昼食→裏磐梯物産館、柳沼周辺視察

## 4. 調査結果のまとめ

### 4-1　観光への影響

事業所を観光事業所、飲食業、アウトドア事業、インドア施設の 4 つに分類し、調査の結果をまとめた。観光への影響に関しては、東日本大震災発生後と新型コロナウイルス感染拡大後の共通点と相違点を分析した。

観光事業所では、常連客の戻りが速いこと、教育旅行の回復が遅いことが共通点としてあげられた。一方、相違点としては、震災後、復興支援活動をきっかけとして徐々に観光客数が回復したこと、一部地域に震災による悪いイメージが定着してしまったこと、コロナ後にはイベントが小規模になったこと、インバウンドがほぼゼロという状態になったことがあげられた。

飲食業では、共通点として価格が高騰したこと、観光客の戻りが遅かったこと、人手不足が起こったこと、事業規模を縮小せざるを得なかった時期があったことがあげられた。また、震災後は福島県産の食材を使用することに抵抗感をおぼえる人が生まれてしまったこと、ワカサギの捕獲が制限されたことが特徴的であった。一方、コロナ後は県内客が増加したことが震災後との相違点としてあげられた。

図 10： 観光への影響～観光事業所・飲食業～

アウトドア事業では、常連客の戻りがはやいこと、教育旅行のキャンセルが相次いだことが共通点として挙げられた。一方、相違点としては、震災後の風評被害が大きかったこと、放射線が釣りに影響したこと、コロナ後、県内からの来客が増えたこと、三密が防げることからキャンプが人気になったことが挙げられた。

インドア施設では、共通点としてリピーターが多いこと、アウトドア事業とは対照的で県外からの観光客の戻りが遅いことがあげられた。また、震災後は風評被害が小さく、施設の利用に問題がなかったことが特徴的であった。一方、コロナ後は休業する施設もあったが国からの補助金の影響が大きかったこと、感染対策が迫られたことなどから新たなシステムの導入も盛んに行われた。

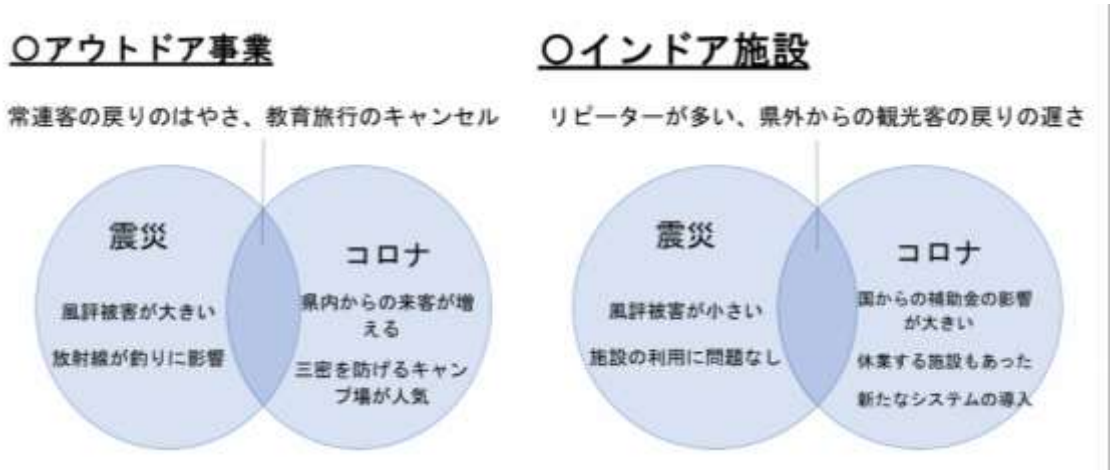


図 11： 観光への影響～アウトドア事業・インドア施設～

4-2　課題

観光関連事業者の課題と、北塩原村の振興に対する課題を抽出した。

まず事業別課題についてである。観光事業所では、変化したニーズに対する対応の遅さや事業主の高齢化、後継者不足が課題としてあげられる。また多くの観光事業所で来館者の減少していること、資金が不足していることも問題となっている。

飲食業では、人手不足、物価の高騰、PR 不足が課題となっている。また、積雪による冬季の利用者減少から売り上げ不振となってしまう飲食店も多い。

アウトドア事業では立地上設備の増強が難しく、土地の正しい計測をすることが課題となっている。また、ガイドが高齢化している傾向にあり、若者を育成することと同時に彼らの質を統一することが重要である。加えて、事業者間の連携が取れていないこともアウトドア事業のひとつの課題である。

インドア施設では、施設リニューアルによる高齢者利用の増加が課題としてあげられる。

表 1：事業所別の課題

| 観光事業所 | アウトドア事業 |
|---|---|
| ・変化したニーズへの対応の遅さ<br>・事業主の高齢化、後継者不足<br>・来館者の減少、資金不足<br>・体験プログラムの後継者不足 | ・立地上設備増強が困難、土地の正しい計測<br>・ガイドの高齢化、若手育成、質の統一、事業者間の連携不足 |
| **飲食業** | **インドア施設** |
| ・人手不足、物価高騰<br>・PR不足、利用者減少<br>・積雪による冬季の売り上げ不振 | ・施設リニューアルによる高齢者利用の増加 |

次に、村の振興に関する課題である。主に、地域で高齢化が進んでいること、資源の価値に気づいていないこと、事業者間の連携が十分でないことがあげられる。

地域の高齢化によって会津山塩、ジュンサイ、花豆、農業従事者、ペンション運営など多くの事業で担い手が不足している。また、事業者は新規事業参入への抵抗感があり新しいことに挑戦しづらい状況にある。

加えて、地域に存在する、魅力ある資源の価値に気づけておらず、その PR が十分にできていないこと、ブランディングができていないことが課題となっている。

また、事業者間の連携が十分にできていないことから、村全体の振興の意思疎通がとれていないことも改善する必要がある。

4-3　村の代表的なお土産と課題

村の代表的なお土産として、花嫁ささげ、ジュンサイ、会津山塩、高原野菜が挙げられる。

花嫁ささげは現在早稲沢の工場で、缶詰の形で販売している。そのため、若者に手にとってもらいにくいことが課題となっている。

初夏の味覚として珍重されるジュンサイは、季節商品であることから天候に左右されやすいお土産である。また、労働力が足りていないため、加工場も少なく、広く流通していないことが課題である。

大塩裏磐梯温泉の温泉を煮詰めてつくられる会津山塩は、生産可能な量に限りがあり、山塩の供給が不安定であることが課題となっている。そのため、供給が需要に追いついていないのが現状である。

トウモロコシなどの高原野菜は、高品質で非常に魅力的な資源であるものの、安く販売されている現状があり、今後ブランディングを進めることが課題となっている。また、現在はほとんどが直売所で加工せずに販売されているため、新たな加工商品を開発して販売することが効果的であると考える。

図 12： 村の代表的なお土産と課題

## 5. 実態調査で明らかになった課題

調査から明らかになった課題をまとめると 4 点挙げられる。

1 点目は土産品の活用不足である。対象地域には魅力的な素材が多くあるが、お土産品として活用できていない現状が見受けられた。

2 点目は事業者間の連携不足である。村内では農業従事者と観光業従事者の交流はほとんどなかった。また、同業者同士でも連携がとれていなかった。

3 点目は新規事業に対する抵抗感である。長年事業を行ってきた方々の中には、新規事

業に対して消極的に考えている方もおり、なかなか実行に移せていないという声が上がった。

4 点目は後継者不足である。事業者の高齢化に伴い後継者が不足しているという事業者が多くいた。また、後継者の不在によって閉業してしまった空きペンションが村内にいくつも放置されていた。

## 6. 今後に向けて（実態調査から得られた活性化策の効果及び改善点）

調査で明らかになった 4 点の課題を今後解決していくために、大学生ならではの若者の視点を導入し、今後は 2 つの軸を中心に進めていく。

① 土産を具体的に掘り下げる

北塩原村の名産品の中で、花嫁ささげ、ジュンサイ、会津山塩、トウモロコシの 4 品目に着目し、商品パッケージの見直しや、価格向上のために付加価値をつけるといった土産品の改善・開発

② ペンションの活用案・体験イベントの提案

空き家状態になっているペンションを活用し、地域活性化に繋がる新規事業を提案

この 2 つの軸から、土産品の活用、事業者間の連携促進、新規事業に対する抵抗感払拭、後継者不足の解消を目指す。これらを通して、今後は村の活性化へ繋がるような活動に取り組んでいきたい。

**謝辞**

今回の調査を行うにあたり、エコツーリズム協会会長眞野様や北塩原村商工観光課の皆様には調査活動が円滑に行えるようご協力頂きました。また、ヒアリングでお話を伺った皆様には、貴重なご意見や経験を共有いただきました。皆様のご協力がなければ、この充実した調査は実現できませんでした。この場を借りてお礼申し上げます。

【参考文献】

・北塩原村ホームページ、概要
https://www.vill.kitashiobara.fukushima.jp/soshiki/somukikaku/1335.html
（最終閲覧 2024 年 2 月 28 日）
・北塩原村教育委員会、「ぼくたち、わたしたちの北塩原村」、59
http://is2.sss.fukushima-u.ac.jp/fks-db/txt/10055.101.kitashiobara/pdf/00059.pdf
（最終閲覧 2023 年 7 月 27 日）
・裏磐梯観光協会、裏磐梯はこんなところ
https://www.urabandai-inf.com/?page_id=74
（最終閲覧 2024 年 2 月 25 日）